

目標達成計画

作成日: 平成23年 5月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	入居者一人ひとりのその時々生まれるニーズについて、チームケアを実践につなげる為の職員全体で話合える時間が少ない。 (気付き)から介護計画→実践にもっと繋げていける事があるのではないか？	職員間で出されるアイデアや気付について話合える(意見交換できる)1日のスケジュールの組み立てを工夫する。	短時間にて勤務者間で意見を出し合える様、業務のスケジュールを調整してノート等に記録として残し、その意見について各職員が返答する。(交換日記の様なもの) 申送り表を新たに見直しする。	6ヶ月
2	43	リハビリパンツ・パットを使用している入居者一人ひとりの排泄リズムを再度見直す。	リハビリパンツ・パットの使用から下着に替えていただく。排泄の自立	本人の思いをくみ取る、パット使用で尿漏れの安心感があるのではないか？等 リハビリパンツとパット使用から→→ショーツとパット等に徐々に取り組んでゆく。	3ヶ月
3	25	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や、現状有する力等を上手くキャッチできているか？ 過剰介護等につながっているのではないか？	一人ひとりの現状ADLを把握して適時に適切な場面を作り(出来る・出来ない・・・解かる・解からない)を見極め有する力を高める。	家事援助では無理のない範囲で協力を求める場面作りを行う。みかん類等皮をむいて貰うまでの一工夫や、食器洗いでは軽いプラスチックの食器を中心にしたりして参加に繋げていけるよう工夫して、有する力を今以上に生かせるような場面を作る。(テーブル咳での作業など)	6ヶ月
4					

